

平成 27 年度佐賀県学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果と今後の指導
小城市立牛津小学校

本年 4 月に行われました佐賀県学習状況調査（5 年生）及び全国学力・学習状況調査（6 年生）の結果につきまして、その傾向・課題、今後の指導について分析しました。

1. 全体として共通的にみられる傾向・課題と、今後の指導（○よい点 ▲課題）

傾向・課題	今後の指導について
<p>○生活の落ち着きが見られ、学習にプラスになっている。</p> <p>▲問題をよく読まないで、問題の意味を正しく理解しないままに答えだけを書こうとしている。また、文だけでなく、図や写真などにどんなことが表されているかを考えて読もうとしていない。</p> <p>▲設定された条件（字数制限など）に合うように記述したり、いくつかの資料（グラフや図、写真など）を組み合わせる解答を導き出したりすることがうまくできない。</p>	<p>○更に継続して落ち着いた学校生活が送れるよう、全校的な取り組みを行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文章問題は苦手」「自信がない」といって手をつけようとならない児童には、日頃から活字に親しむような活動を仕組み、易しい問題などで成功体験を増やしながらか、「なんとかといてみよう」という姿勢が生まれるように、意欲づけを行っていく。 ・技能や知識を組み合わせる活用する活用力を高めるとともに、解答の仕方などの経験をつませる。 ・低学年や中学年の段階から、体験的な学習を通してわかったことや感じたことを表現させる学習活動を仕組む。

2. 各教科について

① 国語科の傾向・課題と、今後の指導（○よい点 ▲課題）

傾向・課題	今後の指導について
<p>【5 年生】県平均をやや上回った。「話す・聞く力」「書く力」「読む力」「国語に関する知識・理解・技能」のいずれも県平均をやや上回っている。</p> <p>【6 年生】県平均を大きく下回ったが、知識・理解の領域では基準をおおむね達成している。</p>	
<p>○漢字については、教えられたことが身についている。</p> <p>▲言葉についての知識理解や技能面での習得にやや問題がある。</p> <p>▲相手意識を持ちながら、自分の考えをわかりやすく伝達しようとする意識が低い。</p> <p>▲文章の全体や部分を読み比べながら解答を導き出すのが苦手である。</p> <p>▲解答の仕方の条件に合うように記述することができていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言語事項の練習プリントや宿題を与えることによって、語彙を増やしていくなど、日常的な言語学習をこつこつとさせる。 ・「話す」「聞く」という学習活動を、総合的な学習などの他教科でも設定して指導を加える。 ・普段の授業の中で、登場人物に手紙を書いたり、学んだことをもとに本のリーフレットを作ったりするなど、生活に結びつく言語活動を仕組んでいく。 ・条件に合うように字数をととのえて書く練習をさせる。

② 算数科の傾向・課題と、今後の指導対策 (○よい点 ▲課題)

傾向・課題	今後の指導について
<p>【5年生】県平均をやや上回った。「算数的な考え方をする力」「算数の技能」「算数に関する知識・理解」のいずれも県平均をやや上回っている。</p> <p>【6年生】県平均をやや下回ったが、昨年4月調査からの伸びが表れてきている。</p>	
<p>○基礎的な計算、面積、角度はできている。</p> <p>○知識理解については十分達成の割合が多く、授業中の聞き方はよい。</p> <p>▲図形の特徴を理解できていない。</p> <p>▲量と測定が苦手であり、分度器の180度を超える使い方ができない。</p> <p>▲考え方の項目があまりよくない。応用、見当をつけるなどの思考力が弱い、無解答は少なくなっている。</p> <p>▲「できる」「苦手」の2極化が見られる。</p>	<p>・操作活動や体験活動が不足しないように配慮し、習得したことを実際の操作活動や生活面で使う場面が多くなるよう指導を工夫する。</p> <p>・授業での学びあいの場面で「待ち」の状態の児童が見受けられることから、一人ひとりの児童が「自分が書いたり話したりしないといけない。」という状況を意図的に作る。そのことによって、全体の思考力を上げていくことができる。</p>

③ 理科の傾向・課題と今後の指導 (○よい点 ▲課題)

傾向・課題	今後の指導について
<p>【6年生】県平均をおおきく下回ったが、技能領域では県平均とほぼ同じである。</p>	
<p>○理科の用語や器具の使い方は理解できている。</p> <p>▲現象と文章の合致についての正誤の見分けはつくが、演繹的に思考するのが苦手である。</p> <p>▲ひまわりの成長の実感がない。実物による学習体験が不足。</p>	<p>・実験や観察を落ち着いて行うことができ、器具の名前や使い方は理解できているので、今後は、例えば、顕微鏡の操作を友達に任せてしまうなどの操作不足、体験不足を解消させ、実感を伴った理解ができるように指導を工夫する。</p>

3. 意識調査にみられる傾向・課題と今後の指導 (○よい点 ▲課題)

【5年生】

○学校では落ち着いて勉強することができていると思う。○学校が休みの日の1日当たりの勉強時間が多い。○自分で計画を立てて勉強をしている。○授業の予習や復習をしている。○苦手な教科

の勉強をしている。○テストで間違えた問題について勉強している。○住んでいる地域の行事に参加している。

▲普段、1日当たりのテレビやDVDを3～4時間以上見ている割合が高い。

【6年生】

○自分には、よいところがあると思う。○将来の夢や目標を持っている。○昼休みや学校が休みの日に、学校図書室や地域の図書館に行く。○授業の予習や復習をしている。

▲普段、1日当たりのテレビやDVD視聴、ゲームの時間が多い。▲朝食を毎日食べている。

傾向・課題	今後の指導について
<p>○こつこつと努力でき、作業が丁寧な児童が多く、向上心が見られる。</p> <p>○家の人と学校での出来事をよく話している。</p> <p>○保護者等の学校行事への参加がよい。</p> <p>○自分によいところがあると感じる児童が9割近くおり、将来の夢や目標を持っている児童も県を上回っている。</p> <p>○予習復習を県平均よりよくしている。</p> <p>○図書室へよく本を借りに行っている。</p> <p>▲たとえば、計画的に勉強できる児童とできない児童、将来の夢や目標を持って学習したり読書したりしている児童とそうでない児童、のような、二極化が見られる。</p> <p>▲普段、1～2時間、携帯電話やスマートフォンを使っている人が18.7%で県(7.4%)を大きく上回り、1日あたりのゲーム4時間を越える児童が14.7%（県7.8%の2倍）となるなど、ゲーム、テレビ、携帯電話、スマートフォンをする時間が長い傾向が見られる。また、ニュースを見る人が県8割に対して、本校は7割にとどまっている。</p> <p>▲学校や町の図書館をよく利用しているが、「本を読んでいる」という面では疑問がある。</p> <p>▲本校の児童は、自分を振り返ることが苦手である。</p>	<p>・家庭学習の出し方を工夫するとともに、せつな短絡的にものごとをすませようとする児童へのはたらきかけをすすめる。また、活躍の場を与えて、有用感や達成感をもたせるなどの働きかけをする。</p> <p>・正しいICTの使い方、モラル教育をすすめる。</p> <p>・親子読書の時間をノーテレビデーにしようという取り組みを始めたが、さらに家庭の協力が得られるような取り組みを工夫する。また、家庭読書の良い取り組みをおたより等で知らせ、意欲づけを図る。</p> <p>・「自分によいところがある」と考える児童が9割近くいることから、その感覚をベースにして、さらに生活振り返り表の活用をすすめ、正しい自己肯定感を高める。</p>